

人の雨後に竹を玩たけづに酬むくゆ

薛濤せつとう

南天春雨の時なんてんしゆんうとき

那ぞ雪霜の姿なせつそうすがたを鑑かんがみん

衆類亦しゆうるいすべて云茂うんもするに

虚心能きょしんよく自みずから持じす

多く晋賢しんけんの酔よいを留とどめ

早つとに舜妃しゆんひの悲かなしみに伴ともなう

晩歳君能ばんさいきんすなわち賞しょうせよ

蒼蒼勁節そうそうけいせつの奇きなるを

(作者) 七六八? 八三一? 中唐の女流詩人。長安で生まれるが父の薛郾の赴任とともに成都へ移る。一四、一五歳の頃に任地で父が亡くなり、一七、一八歳頃までに伎女となる。劍南西川節度使の韋皋の屋敷に召されて酒宴に侍し、詩を賦して女校書と称せられた。浣花溪にいて、白居易・元稹・牛僧孺・令狐楚・張籍・杜牧・劉禹錫などと唱和し、名妓として知られた。なかでも元稹と親しかったという。彼女が作った深紅の小彩がついた詩箋(色紙のようなもの)は、当時「薛濤箋」として持てはやされた。王羲之の書法を学んだ書家としても認められ、その一片は宋の宮廷に秘蔵されていたという。晩年は碧鷄坊に居住し、吟詩楼を建てた。段文昌の墓誌が残されている。

(語釈) ○那鑑：どうして目に浮かべるだろうか。「那」は反語。○衆類：あらゆる種類の生物。○云茂：盛んに茂る。○虚心：心にわだかまるものがない。(竹は中が空洞である事から例える) ○自持：自分を保つ。○晋賢：西晋の竹林の七賢。政治権力や礼教に拘束されずに「清談」を重んじ竹林に集い酒や詩文で楽しみ、後世の人々が憧れる存在となった。○舜妃の悲しみ：帝舜の妃が、帝の死を悲しんで流した涙のしずくで竹が斑模様になった伝説をいう。○君：読者をさす。○能ち賞せよ：讃えるべきだ。○蒼蒼：青々とする。○勁節：強い節操。○奇：すばらしさ。

(通釈) (ある人の「雨上がりに竹をたたえる」に応える)

南の空が春雨の季節に、どうして雪や霜に耐える姿を目に浮かべることができましようか。万物がみな成長するなか、心に欲もなく、自分の生き方を守っている。

(竹林は) 西晋の七賢が酔うまで何度も引き留め、その昔、帝舜の妻の悲しみにも寄り添った。冬には褒めてあげてください、青々として、強い節操をもちながら生き抜く竹の素晴らしい姿を。

(鑑賞) 「雨後に竹を玩ぶ」という詩に応えた作品。春の良い季節には竹の価値は分らない。万物が生き生きしている時はむしろ目立たずにいる。竹は芯の部分が空洞なので心を無にしている「虚心」とした。又、竹を擬人化し、竹林の七賢や班竹となつた故事を引く。冬にも挫けない節操を持ち、青々として霜雪に耐え抜く素晴らしさを詠っている。

酬人雨後玩竹

南天春雨時 那鑑雪霜姿 衆類亦云茂 虚心能自持
多留晋賢醉 早伴舜妃悲 晚歳君能賞 蒼蒼勁節奇